

墨液はもう必要ない!!?

電動墨すり機

墨すり小僧



呉竹製『興雲』10丁型と
南松園製『玄真墨』10丁型
を【墨すり小僧】で1時間
づつ磨ってみました。

左の『興雲』は、

量にして18.6g

長さにして2.1cm

右の『玄真墨』は、

量にして23.0g

長さにして2.9cm

もの量を1時間で磨る事が
できます。



(株) 掃雲堂

大阪府東大阪市荒本新町27-1

TEL 06-6787-7571

FAX 06-6787-7571

e-mail: office@sohundo.co.jp

墨液はもう必要ない!!?

電動墨すり機

墨すり小僧

特徴 その1.

(実用新案登録済み)

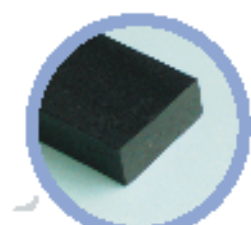
硯面が水平ではなく傾いているため、墨が常に水面上にあり、早く磨れる。

特徴 その2.

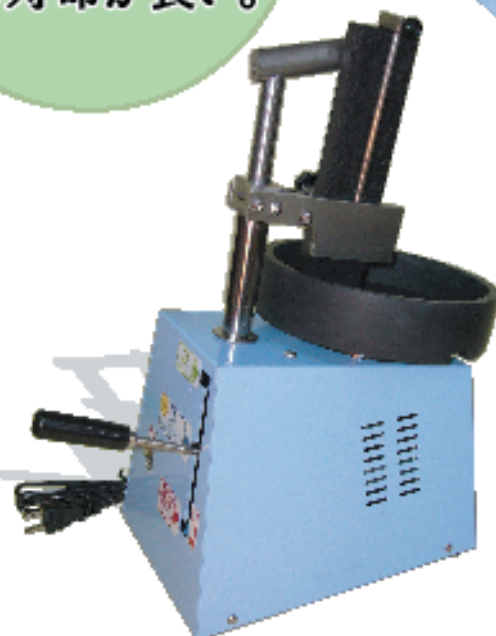
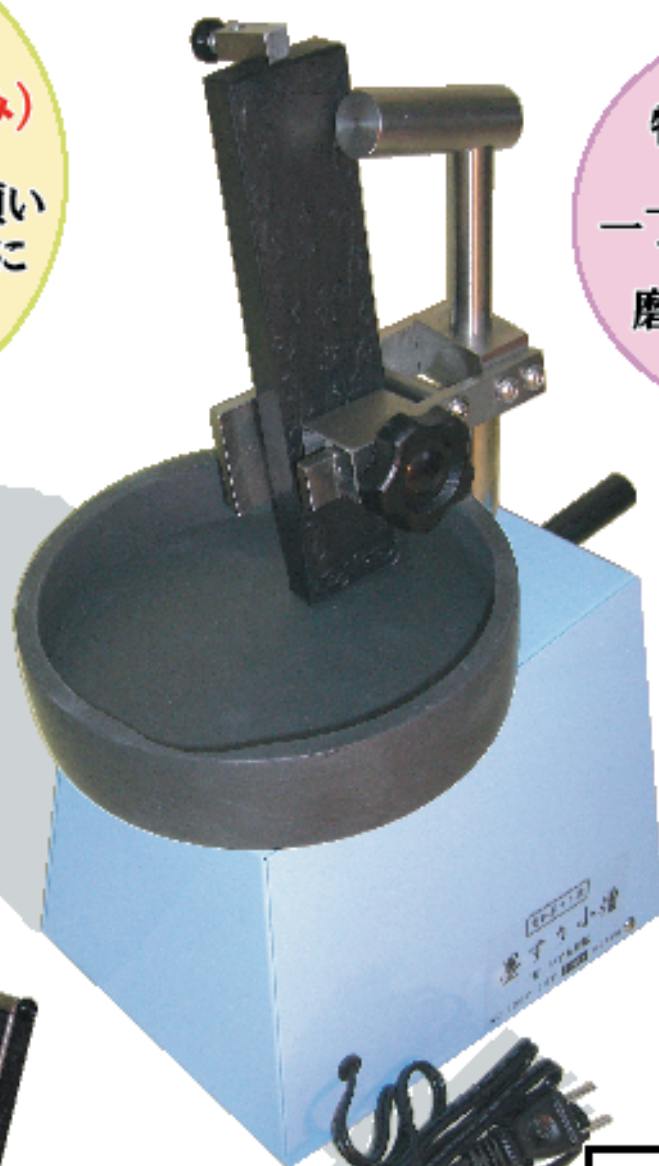
一丁掛けで驚きの磨墨量!!!

特徴 その3.

天然石なので、硯の寿命が長い。



磨り口もこんなにキレイ



付属品



同梱品

本体・計量カップ

墨押え・泥砥石・説明書

1時間使用した場合の電気代(目安)

約0.5円

本体価格(税込み価格)

¥55,000

硯【7吋羅紋硯】価格(税込み)

¥5,000

※予告なしに値が変わることがあります

墨液はもう必要ない!!!?

電動墨すり機

墨すり小僧

【特徴 その1.】 硯面が水平ではなく傾いているため、墨が常に水面上にあり早く磨れる。
(実用新案登録済み)

右図①のように、回転軸を傾けることによって、墨すり中に墨が常に水面上にあるため、手で磨る感覚に近く、磨り口もとてもきれいです。従来の常に水中にあるタイプは、磨ると言うよりも水でやわらかく溶かす感じだったのが、墨すり小僧では、適量の水と、適度の力で『磨る』ことが可能になりました。



【特徴 その2.】 一丁掛けで驚きの磨墨量!!!

一年以上の間、実験を繰り返し開発された墨すり機『墨すり小僧』。

今までの墨すり機の半分以上の時間で、満足のいく濃さを磨りおろすことができます。

一時間(水量100cc)で冬に約13.6g~15.7g、夏には約20.8g~23.4g(当社実験値)

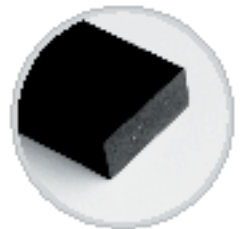
もの量を磨る事ができ、右写真②の様に、磨り口もとてもきれいです。

もちろん、水量が60ccもしくはそれ以下でも磨る事ができます。

他社の墨すり機と比較しても、明らかに磨る速さ・量が違います。

このスピードにより、磨りながら書くことが可能になりました。

二丁掛けの方がたくさん磨れるイメージがありますが、新構造(7寸の硯の回転数を50回転/1分間に設定、一丁の墨による磨方向の力を大径のスラストベアリングで受け取る)により【特徴その1.】とあいまって一丁掛けで二丁掛けの2倍以上(当社実験値)の磨墨量を実現しました。



写真②

【特徴 その3.】 天然石なので、硯の寿命が長い。

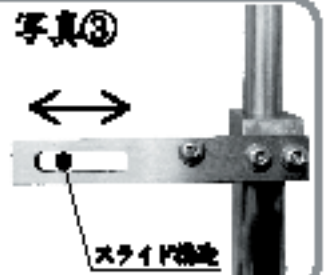
付属の硯は天然の雁紋硯(7寸)なので、目詰まりをしても、荒砥石で硯面を磨くことが可能な為、いつまでも使え、消耗による買い替えは少なくて済みます。

しかも天然の石なので、硯面に程よいムラがあり、磨った墨の粒子が一定ではありません。

一定の高温度になると自動停止機能(温度保護スイッチ)がついております。通常時は関係ありませんが、故障の時に働き、モーターや熱等による火災を防ぎます。

磨り終わった時にレバーを上げて墨を硯から放してから電源を切らないと、写真③のように墨が水を含んでふやけていない為、一晩で硯に墨がくっつきます。(固着)もし固着してしまった場合は、硯に熱湯(100℃以下)を注ぎ、ひねりながら外してください。このとき火傷に十分ご注意ください。

墨をはきむね持器具は、写真③のスライド構造により、色々なサイズの墨をはきむねを可能にしました。墨の厚みは最大27mmまで、はきむねが可能です。(薄い墨は、かまぼこ板などで厚みを調整してください)



写真③

スライド構造

重要

温度環境が磨墨量に多大な影響を及ぼします。できれば20℃以上の環境にてお使い下さい。

(株) 掃雲堂

大阪府東大阪市荒本新町2-7-1

TEL 06-6787-7571 FAX 06-6787-7574

E-mail: office@sohundo.co.jp